

Field Report

Ⅱ級窩洞に対する
MIIに則った治療プランの提案事例

神奈川県川崎市 オズ通り歯科医院
院長 有田 まき 副院長 小川 明宏

＜有田 まき 院長 症例1＞

Ⅱ級コンポジットレジン修復のメリットのひとつに、切削量を最小限に抑えられる点が挙げられます。例えば、隣接面に限局した小さな窩洞に対し間接修復を選択した場合には、保持形態を付与するために健全歯質を大きく切削する必要があります。近年、健全歯質の温存を望む患者さんが増えており、こうした症例にはコンポジットレジンによる直接修復を当院では第一選択としています。

症例1は、定期メンテナンスで通院されている40代女性の症例です。

X線画像でははっきりとは分からないものの、透照診では4]の遠心に1年前からう蝕を確認し、経過観察を行ってきました。その後、目立った進行は見られなかったものの、患者さんの希望でう蝕が広がっていないうちにコンポジットレジン修復を行うことになりました。

当院ではマイクロスコープを用いて、動画を記録しながら治療を行っていますので、インフォームドコンセントの観点から、染め出しや窩洞形成などの治療過程を動画や画像を通じて患者さんに確認していただいた上で治療

を進めます。

提示した症例では隔壁を行う器材として、『3DリテーナーフュージョンS』、『フュージョンウェッジ エクストラスモール』、『マトリックスバンド スタンダード』を選択しました。選択のポイントは、窩底部の歯質とマトリックスが適合しているかという点に特に注意を払っています。

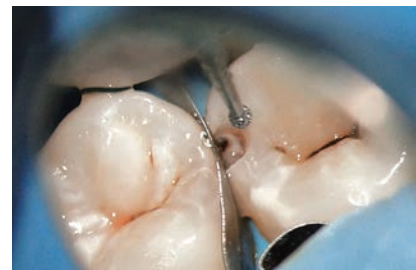
この患者さんは将来的にもインレーを入れたくないという要望をお持ちでした。う蝕の大きさを鑑みても間接修復は選択しづらく、むしろ直接修復を行うことで早期に介入ができ、切削量



症例1-1 40代女性。術前の状態。1年前から4]の遠心にう蝕を確認し、経過観察を行ってきた。



症例1-2 透照診では既に4]の遠心う蝕が認められていた。



症例1-3 隣在歯を保護しながら拡大視野下でう蝕除去を行う。



症例1-4 ギャリソンデンタル社のマトリックスシステムを使用し隔壁を設置した。



症例1-5 「クリアフィル マジェスティ ESフロー」(クラレノリタケデンタル)を用いて充填を行った。



症例1-6 術後

を本当の意味で最小限に抑えられたと思います。また、これだけ小さな窩洞形成が行えたのは、マイクロスコープを用いた恩恵とも考えています。患者さんは治療中も特に痛みを感じることなく、即日で修復できたことにとても満足されました。

<小川 明宏 副院長 症例2>

拡大視野下でのⅡ級コンポジットレジン修復を行うようになって以来、患者さんに感動していただける機会が増えたと感じています。治療後に、治療の記録を動画でご説明すると、「こんなに丁寧に治療してくださっていたんですね…」とおっしゃってくださる患者さんが多くいらっしゃいます。

根管治療などでも同様に感動はあると思いますが、患者さんにとって失われた歯がその日のうちに治るインパクトは非常に大きいものと感じます。治療後はメンテナンスが大切になりますから、治療に感動していただけるということが、継続した通院へのモチベーションにもつながると感じています。



症例2は、奥歯の違和感が主訴で来院され、メタルインレーからコンポジットレジンへの再修復を行った50代女性のケースです。デンタルX線撮影を通して、「6」のインレー不適合を確認しました。頬側の歯質に厚みがあり、機能咬頭も残っていたため、コンポジットレジン修復にて治療を行いました。この症例の場合、う窩が広く深いことから『ストラタG リテーナー S』を、歯肉側マージンの封鎖性を十分に得るために『フュージョンウェッジ スモール』と『マトリックスバンド スタンダード』を選択し、積層充

填を行いました。

元々メタルインレーが入っていたため、再度メタルインレーを選択することも選択肢の一つとして考えられました。しかし、コンポジットレジン修復の高い接着力と即日性、そしてマージンラインの適合精度など、メリットとデメリットを踏まえて患者さんにご説明したところ、最終的にコンポジットレジン修復を選択されました。

このように、私の臨床の中では、直接修復と間接修復の判断に迷った場合、コンポジットレジンにて直接修復を行うことが多くあります。



症例2-1 50代女性。術前の状態。「6」のインレー不適合が認められた。



症例2-2 インレーを外し裏装材を除去した後、う蝕除去を行った。



症例2-3 「ストラタG リテーナー S」を用いて隔壁を設置し、「クリアフィル マジェスティ ESフローHigh」を用いてライニングを行う。



症例2-4 次に隣接面を再建する。



症例2-5 咬合面を充填した直後の状態。



症例2-6 術後